

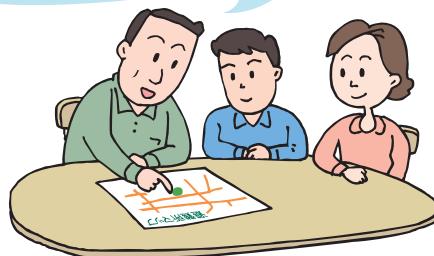
市民行動要領（日ごろからの対策編）

1 家族防災会議

家族で話し合う必要があるものについて、大きく次のようにまとめました。話し合う上で重要なのは、災害に対しての想像（イマジネーション）です。

いろいろな場面を想像して家族内の対策を立ててみてください。

家族全員で防災訓練に参加しよう!!



check 1 地震に関する基礎知識

- 東海地震に関する調査情報・東海地震注意情報・東海地震予知情報・警戒宣言の意味
- 警戒宣言によるライフラインなどの規制状況

check 3 地震に備える場所の確認

- 警戒宣言時にどこで地震に備えるのか
- 家族が離ればなれになった場合の落ち合う場所の確認
 - ・ 警戒宣言時に地震に備える場所が家族の落ち合う場所になります
- 避難場所の確認
 - ・ 地震が起きた場合に備えて避難場所の確認もあわせて行う
 - ・ 避難場所の確認とともに避難するルートも確認
- 避難の方法を確認

check 5 備蓄と非常持出品

- 家族構成を考えて必要な品を準備
- 保存状態や賞味（品質保定期限）期限などの確認

基本的な項目は以上のようにになりますが、家族構成により乳幼児や高齢者がいる場合の対応や、子供がいる場合は学校などへ迎えに行く方法等を決めておく必要があります。必要以上に地震を恐れることなく、いざというときに備えた対策を講じておくことが大切です。

また、地域で行われる防災訓練に家族全員で参加しましょう。

check 2 家の危険箇所のチェック

- 家の耐震状況を確認
- 家具等の配置や転倒・落下防止
- ガラスの飛散防止
- ブロック塀の転倒防止

check 4 家族間の連絡方法

- 家族が離ればなれになった場合の連絡方法を決める
- 災害用伝言サービスの利用方法
 - ・ 災害用伝言ダイヤル「171」
 - ・ 災害用伝言板サービス
 - ・ 災害用ブロードバンド伝言板「web 171」

check 6 日ごろ・東海地震注意情報発表時・警戒宣言時における対応

家族一人ひとりの役割分担

- 日ごろの防災対策上の対応
- 東海地震注意情報発表時・警戒宣言時の対応
- 地域で行われる防災訓練へ家族全員で参加

② 我が家の耐震対策

阪神・淡路大震災では、なくなられた方の約8割が建物の倒壊などによる圧死でした。市では、地震から住宅の被害を防止するため、各種事業を行っています。

地震に自信！3つのステップ。



木造住宅の無料耐震診断

名古屋市内の昭和56年5月31日以前に着工された住宅を無料で診てもらえるよ。

申込書は区役所等に用意してあるので、必要事項を書いて送ってね。

木造以外の住宅の耐震診断助成

名古屋市内の昭和56年5月31日以前に着工された木造以外の住宅は、診断費用(面積により上限あり)の2/3以内(一戸あたり5万円を限度)を助成してもらえるよ。

※必ず診断着手前に申請する必要があります。

無料耐震相談窓口

毎週火曜日と第2・4土曜日(火・土とも午後1時から5時まで)に栄地下街で耐震改修や鉄筋・鉄骨の住宅や建物の耐震相談をしてもらえるよ。予約してから来てね。



木造住宅耐震改修助成

◆一般改修：耐震改修工事費の1/2かつ上限90万円まで助成してもらえるよ。

※名古屋市の耐震診断を受け、判定値1.0未満と判断されたものを最低0.3以上引き上げ、1.0以上まで補強する工事に適用。

◆段階的改修：耐震改修工事費の1/2かつ上限40万円まで助成してもらえるよ。

※名古屋市の耐震診断を受け、判定値0.7未満と判断されたものを0.7以上1.0未満まで補強する工事に適用。

※2段階目の改修(1.0以上にする耐震改修工事)にも、耐震改修工事費の1/2かつ上限50万円まで助成します。

※必ず工事着手前に申請する必要があります。

木造以外の住宅の耐震改修助成

耐震改修設計費の2/3、耐震改修工事費の約15%まで(一戸あたり上限あり)助成してもらえるよ。

※耐震診断を受診し、耐震性が低いと判定された場合に適用。

※必ず設計・工事着手前に申請する必要があります。

※平成24年1月末現在の内容です。

お問い合わせ・予約先 住宅都市局耐震化支援室 TEL 972-2921

名古屋市ブロック塀等撤去助成

補助対象

道路に面する高さ1メートル以上のブロック塀等で、倒壊の危険性があるものや老朽化している塀を撤去する場合に補助します。（詳細についてはお問い合わせください。）

補助金額

9万円を限度とし、ブロック塀等の撤去に要する費用の1/2とブロック塀等の長さに1メートルあたり4,500円を乗じた額を比較して、どちらか低い額を補助します。

●補助を受けるには、必ず工事着工前に補助金交付決定を受ける必要があります。

●「ブロック塀等」とは、コンクリートブロック塀、石塀、レンガ塀などの塀で、門柱も含みます。

③ 家具の転倒防止や落下物の対策

阪神・淡路大震災では、家は倒壊しなくても倒れてきた家具に押しつぶされたり、割れたガラスでケガをした人がたくさんいました。

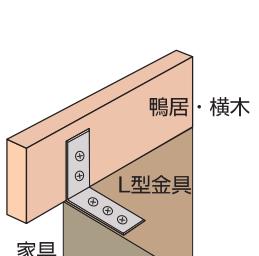
建物が無事でも家具が転倒すると、ケガをしたり、室内が散乱状態のために延焼火災から避難が遅れてしまうなど被害が大きくなります。

家の中の地震防災度を高めておきましょう。

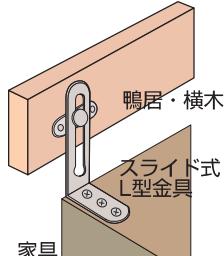
家具や壁の形態ごとの転倒防止策

1 家具と壁等を固定する方法

[例1] L型金具を2ヶ所固定する方法

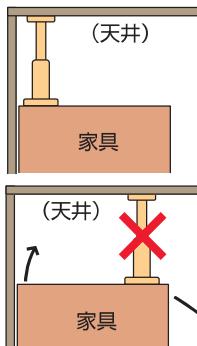


鴨居や横木が家具の上端と同じ高さの場合



鴨居や横木が家具の上端から10cm未満の寸法で離れている場合

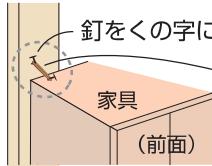
[例2] 家具転倒防止支柱で2ヶ所固定する方法



転倒防止支柱は家具の後方(壁寄り)に固定する。

前方(部屋寄り)に固定すると、家具は転倒する可能性がある。

[例3] 釘と針金で2ヶ所固定する方法

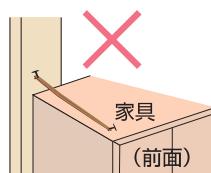


釘をくの字に曲げる
釘と釘の間隔をできるだけ狭くして柱または壁に近づけた方が効果的です。

●美観を考慮すると



を釘のかわりに使用する方法も考えられます。



この位置の固定は、強度的に効果がうすい。

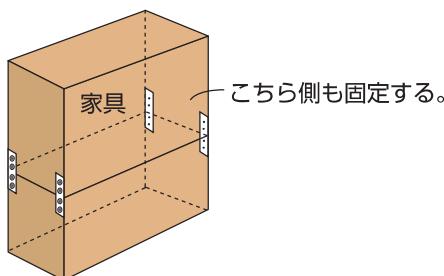
※その他に



などの器具がホームセンターなどでも販売されています。

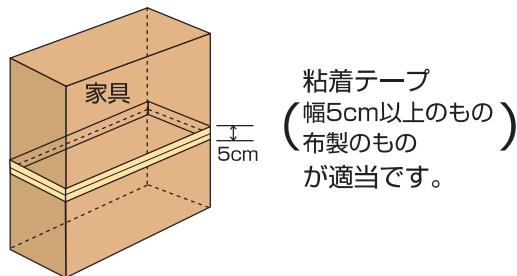
2 二段重ねの家具を安定させる方法

[例1] 繰ぎ部分を補強金具で固定する方法



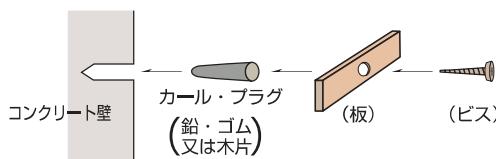
※倒れにくくする原則は重心を下げることです。（重いものは低いところへ入れましょう。）

[例2] 粘着テープで繰ぎ部分を貼る方法



3 壁面等の構造上の理由で、直接家具を固定することができない場合の方法

[例1] 比較的軽量の場合

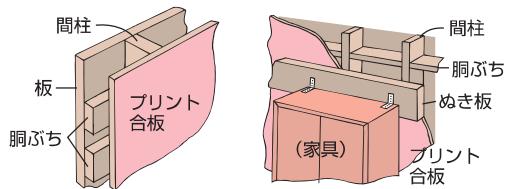


コンクリート壁面にドリルで穴をあけ、カール・プラグを差し込み、さらにビスをネジ込んで補強用の横架材（ぬき板等）を取り付けたうえで、前述した方法等を利用してロッカー、棚類の固定を図る。

[例3] 大型・重量のある場合

コンクリート壁面にドリルで穴をあけ、ボルトを打ち込んで補強横架材や取付金具を取り付け、ロッカー、棚類の固定を図る。

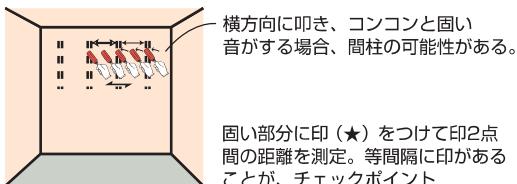
[例2] 大壁（柱の見えない壁）に固定する場合



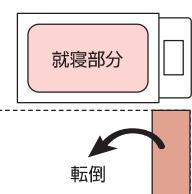
間柱と間柱の間に補強用の横架材（ぬき板等）を取り付けてこれに家具を固定する。

※間柱、胴ぶちの見つけ方

ドライバー等で軽く表からたたいて、音の変化で見極める。



就寝位置や出入口と家具との関係



就寝位置は家具の側方がよい。
(家具を置く場合)

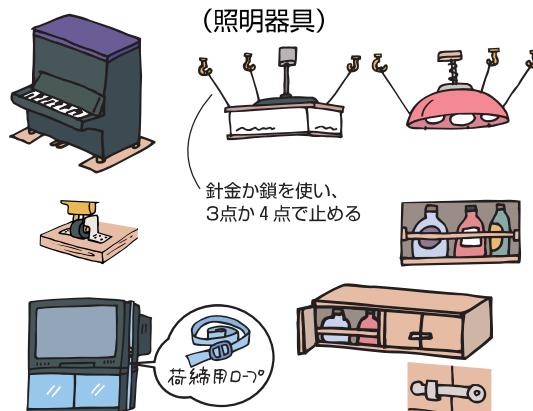


台の上に乗せたテレビやパソコンなどは飛び出す可能性があるので就寝位置、特に枕の位置には注意。



扉が開かない
避難できない
※スペースに余裕があれば寝室などには家具を置かず、安心できる部屋としましょう。

その他の転倒防止などの方法



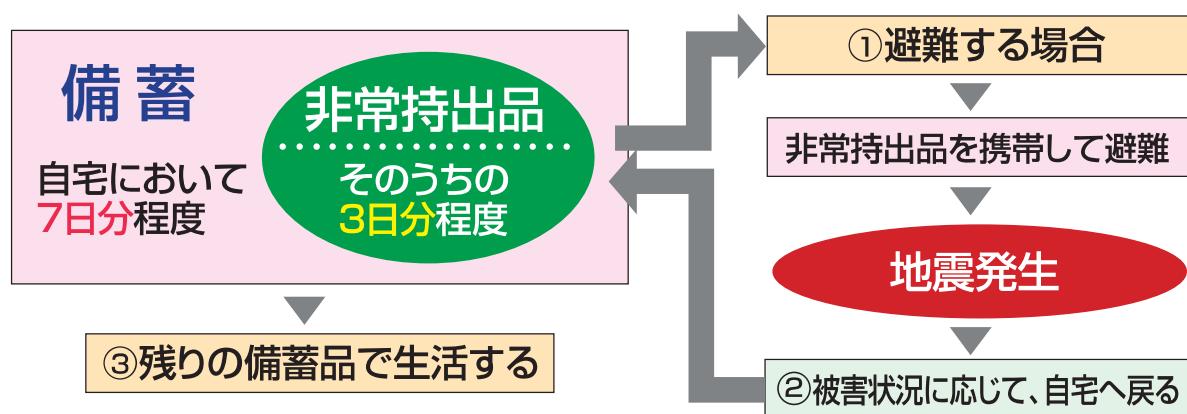
※家具の上などに物が置いてあると家具の転倒と同様にケガや避難の障害になります。家具の上などへ物を置かないか、落ちないようにしておきましょう。

4 非常持出品の用意

東海地震を想定した場合、日頃からの備えとしてどれくらいの備蓄品を用意し、避難する場合はどれくらい持ち出せばよいのでしょうか。

東海地震が予知され警戒宣言が発表された場合、地震が発生するまで2~3日（または数時間）とされています。また、地震が発生した場合、道路などが被害を受けると、食料などが流通するまでに数日かかると予想されます。

これらを考えると、日頃からの備蓄としてはおおむね7日分程度を備える必要があります。ただし、飲料水は、警戒宣言後も水道が使用できるため、ある程度、備蓄量を減らすこともできますが、予知されずに地震が発生する場合もあることを忘れてはいけません。避難する場合は、3日分程度を非常持出品として持参してください。



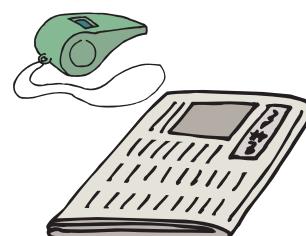
- 日常の生活を続ける中で備蓄していく
- 年に数回は備蓄品の賞味（品質保持期限）期限などを確認する

備蓄の量は？

おおむね7日分程度を備えておくと良いでしょう。避難する場合は、そのうちの3日分程度を非常用として持参してください。飲料水は警戒宣言後も水道が使えるため、ある程度減らすことができますが、忘れてはいけません。

阪神大震災で役に立ったもの！

新聞紙（保温性があり、毛布のかわりになる）、ラップ（食器にラップを敷くと洗わなくてすむ）、ゴム手袋（冷水から手を守る）、ゴミ袋（カッパや防寒具になる）、ガムテープ、紙コップ、紙皿、笛・ホイッスル（倒壊家屋に閉じ込められた時に自分の場所を知らせるため）など



屋外での避難生活のために

警戒宣言における避難生活は、原則屋外となります。そのため、テントなどのキャンプ用品があると便利です。

非常持出品の例

[ポイント1]

荷物は最小限にまとめ、リュックサックなど両手が使える背負い式の物を準備しましょう。

食料品関係

飲料水（一人1日3㍑必要）
乾パンやクラッカー
レトルト食品・缶詰
(はし・スプーン・缶切り・ナイフも忘れずに)
調味料・粉ミルク・ほ乳びん
キッチン用ラップ
(汚れた皿にかぶせて使える)
紙コップ・紙皿



貴重品

現金（小銭も必要）
※預金通帳や有価証券の写し
※健康保険証や免許証の写し
認印・印鑑
カード類
※日頃は、写しを入れておき、避難するとき余裕があれば実物を持ち出しましょう。



衣類関係

下着（家族分）
衣類（長袖のもの）
雨具・タオル・毛布
寝袋



[ポイント2]

- 1 地震の発生により割れたガラスが散乱することもあるので、枕元に底の厚いスリッパ・運動靴など準備しておきましょう。
- 2 常備薬や眼鏡の予備、入れ歯なども忘れずに準備しましょう。
- 3 屋外における避難生活に必要となる物品、テントなども準備しましょう。



防災用品

携帯ラジオ・帽子
ヘルメット・防災ズキン
ロープやノコギリ、バールなどの工具
(人命救助・倒壊家屋の除去に役立ちます)
笛
(倒壊家屋に閉じ込められたときに自分の場所を知らせるため)
軍手・防塵マスク・バケツ

燃料及び照明器具

カセットコンロ（予備用ガスボンベ）・マッチ・ライター
懐中電灯（予備用電池）
ローソク・なべ（コッヘル）

医療用品

三角巾・包帯・ガーゼ
消毒薬・ティッシュペーパー
ウエットティッシュ
紙おむつ・生理用品・脱脂綿
ドライシャンプー
携帯トイレ



便利品

- ・使い捨てカイロ
- ・ガムテープ
- ・筆記用具
- ・裁縫セット
- ・新聞紙
- ・ゴミ袋
- ・ハンガー
- ・トイレットペーパー
- ・ゴム手袋